

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら東神奈川教室		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	74	(回答者数) 67
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 11月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 23
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様に寄り添ったサービス提供	偏食などへの柔軟な対応 昼食購入学習の実施 HUGアプリでの情報共有	食育の研修やプログラムの充実 昼食購入学習を通して社会性を伸ばしていく アプリを活用した情報共有の利便性向上
2	集団活動と個別課題の使い分け	集団活動への苦手意識がある場合に個別の対応が少しずつ集団参加を促していく。 また、集団活動に参加できる児童に対しても個々の課題に応じたプログラムや支援を実施する。	職員間で児童の課題や実態を把握、共有することで適切な支援が行えるようにする。
3	専門的な視点からのアプローチ	専門職が定期的なアセスメントを行い、他の職員に指導方法をレクチャーすることで専門性の高い支援を行う。	社内の別の専門職とも連携し、相互の専門性を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ミーティング時間の確保	送迎対応や書類作成の時間が多く、多くの職員を一堂に集めることが難しい。	業務の効率化を図り、時間を捻出していく。
2	情報共有に時間がかかる。	職員の数が多く、情報が周知されるまで時間を要する。Bandアプリを活用しているが情報が浸透しているかの把握が難しい。	メッセージツールと実際のミーティングを活用する。また話し合った内容は議事録にてすぐに情報共有を図る。
3	障害に対する専門性の確保	様々な障害を有する利用者様がいるので、常に地域連携などで専門性を補う必要がある。	研修や事業所内での事例検討会の実施。社外での研修参加を積極的に行う。